

## 得体の知れない旅の魅力

2

なんで、自分はこんなにも旅が好きなのだろうか。

実はいつもギャップを感じていた。旅好きと、旅にさほど関心のない人——両者の感覚には大きな隔たりがあり、その溝を埋めるのは想像以上に困難だと痛感してきた。

ある意味、仕方のないことだと諦めてはいる。価値観は人によって様々なのは当たり前だし、僕も興味のない人に自分の趣味を押し付けるつもりは毛頭ない。

居酒屋なんかで与太話をしている時、たまたま話題が旅に関するものになったりすると、僕はここぞとばかりに喜色満面で話に花を咲かせてしまう。

最初は「へー」とか「ほー」とか、大げさに相槌を打ってくれていた相手も、次第に面倒くさくなってきたのか反応が鈍くなってくる。

そうして気がついたら、旅とは別の話題へといつの間にか切り替わっていて……。話している側としては消化不良で、ちよっぴりガツカリさせられる。

「自分探しの旅ですか？」

旅の話をし始めると、真面目な顔でこう訊かれることがしばしばある。真剣に反論するのもなんだか馬鹿らしい気がして、冗談っぽく笑ってやり過ぎることが多い。

少なくとも、僕の旅は「自分探しの旅」ではないことはハッキリしている。ちよっとくらしい旅をしたからといって、それだけで都合よく「自分」が見つかるはずないという気持ちには根強いのだ。

あえて旅が好きな理由を考えてみても、思い浮かぶのはせいぜい、

「世界をこの目で見てみたい」

「日本で暮らしていると気が付かない新しい価値観に出会いたい」

といった程度のもので。実に凡庸な思考なのだが、一方で旅に関心のない人たちを見てみると、本当にそれだけなのかわからなくなったりもする。

旅への欲求が人並み以上にあることは間違いないわけで、ひよっとすると僕自身も気が付いていない、旅へと駆り立てる「何か」があるような気もするのだ。僕だけの話ではなく、これは多くの旅人たちが抱える壮大なテーマなのではという予感さえする。そうでないなら、人生を狂わせられた側として納得がいかない。

得体の知れない旅の魅力とは何か？

そろそろ白黒つけてもよいのではないか。

新しい旅が始まろうとしていた。

いや、始めようとしていた——。

得体の  
知れない  
旅の魅力

3